

解 説

# 推進工事技士 そして未来へ

とりい こうじ  
鳥居 耕司

地建興業(株)  
工事部第一工事課課長  
(推進工事技士)

## 1 はじめに

私が、当社に入社してから早いもので25年になります。推進工事を主体業務として推進技術とともに成長してきました。新人時代は、右も左も分からず職人さん主体の現場管理をしていた記憶があります。ただ少しずつ知識が身についてくると、危険な作業と隣り合わせで仕事していることを実感するようになりました。会社の取り巻く環境も変化し、下水道処理人口普及率が向上するとともに下水道の推進工事のが年々減少していきました。一方で、管更生工事が増え、民間工事の推進工事も多くなり、当社では管理者不足が続いています。

## 2 資格取得をめざしたきっかけ

この資格を目指したきっかけは、入社して間もないころ土木施工管理技士2級よりも、まず推進工事技士の取得を上司から勧められたからでした。1年以上の指導監督的事務経験という受検資格(現在は学歴・経験不問)を得てすぐに出願しましたが結果は当然ダメでした。2回目は先輩方に勉強方法のアドバイスや出題のポイントなどを教えていただき、無事合格することができました。

## 3 活用事例

推進工事技士の醍醐味は、推進工事の設計業務を管径・線形・延長・土質・土被り・関係法令などの観点から精査し提案したものが実際に採用されることです。民間工事設計やトラブル時の対応、役所などの発注者などからの相談などを受けることもあります。特にトラブルの対応では、経済性を考慮し対応策を示すときに推進工事技士の資格が後ろ盾となり、強く主張することができました。

推進工事の現場は短期間なので、1年間に何現場も廻ることがあります。その都度、元請や発注者の方と初対面となりますが、推進工事技士の資格保有者とわかれば年齢に関係なく信用に繋がりが、発言する言葉にも責任感が湧き結果プラス方向に働いていると思っています。

更新講習では災害事例を示してくれます。そのほとんどは自身も経験する類似作業なので、現場のチェックポイントを事前に抑えるのに役に立ちます。安全意識の向上や危険のポイントを見つけ改善、改良していく上で参考になると思います。

以下に、思い出が深い現場を示します。

呼 び 径：1000 (HP)

工 法：泥濃式推進工法

推進延長：L=199.6m

曲 線：複合曲線(左・上・左・下)